

第3回 四国布教区 学徒研修会 記録 2024/03/09/19:00～20:00

<オンライン>

参加者：高知佛立寺M，立正寺T*，松風寺A*，顕本寺K，宝泉寺U*・H*，
妙泉寺N，丸山淳啓（妙泉寺教務），ファシリテーター岩本淳要（西条佛立寺教務）
（*印添付は学徒）

●研修計画の説明（要旨）

”佛立信心を伝えるために問い直す.....「わたしにとっての〇〇」”

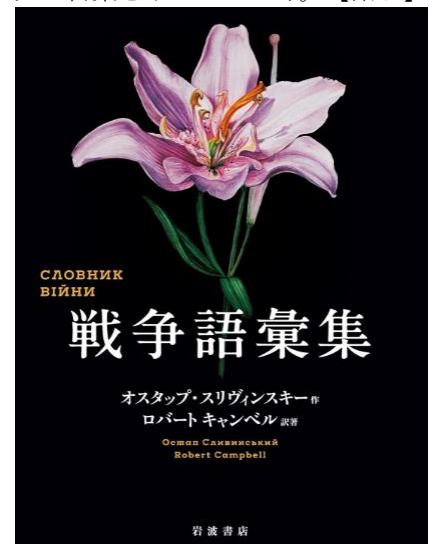
VTR視聴（4分54秒）

NHK制作放送番組『戦禍に言葉を編む』（2024年2月24日）のダイジェスト

戦時下のウクライナで、市井の人たちの体験を聞きとった本『戦争語彙集』が出版された。「ゴミ」「スイーツ」「恋愛」など77の短編には、それまでの日常...ささやかでかけがえのない生活や記憶が、ひたひたと戦争にむしばまれていく様子がつづられている。ロシアによる侵攻開始から2年、ウクライナの人々の心の奥底では、どんな変化が起きているのか。現地を歩き、戦禍に編まれた1人1人の言葉をみつめていく。【語り】池松壮亮

※人形劇場に避難中の子供らの「沈黙」について、戦争の前後で「沈黙」の意味することが大転換してしまっただけを紹介。

私たちのご信心においてもまた、信心をする前と後では、言葉の意味するものが大きく変化するはず。しかも異なる体験を経た信徒（学徒）一人ひとりが自分にとっての意味を言語化することが、他者への語りでは必要になるし、弘通の武器となる。借り物の言葉ではない、自己表現を模索していきたい。それを発表・共有しながら、互いに、より良い表現を探求してゆく。



●第1回テーマ「お寺」（※前回02/11懇談会参加者にはその時点で告知済み）

以下は発表内容。

（おおむね文章化されていない口頭での発表のため、聞き取り要旨。発表者名は教務のみ記録。）

（文責・岩本）

- ・（周囲のご信者と今回のテーマについて話し合う中で一番腑に落ちた表現は）一日の始めに一日の無事を祈り、終わりに一日の御礼をさせていただくために参る場所。
- ・（入信前は、いわゆる葬式と法事の時だけ集う場所であったが）心の安らぎというよりも修行の場。御宝前の前に座れることが幸せと感じられるようになった場所。

- ・本門佛立宗のお寺は特徴として、毎日、朝参詣がされていて、毎日参詣させていた
だけば、規則正しく生活できて功德が積める場所。
- ・亡くなった方をご回向し、困っている人をお助行で助け、正しい物事の考え方を教
えていただく所。
- ・御題目口唱の修行の場であって、お給仕やご奉公の道場。
- ・信者の自宅の御本尊は支店のようなものであるのに対して、お寺は本店のようなも
の。だから信徒が参詣しなければいけない場所。
- ・（自分のなかでも経験の深まりによって意味合いが変化してゆくところがあります
が、一般的に語り伝えるとするならば）何かあった時に相談に行ける場所。人生
の案内所。《丸山談》
- ・（生者も死者もあらゆる衆生にとって）そこに居ることが、最も心の平安を得られ
る場所。《岩本談》

《講評》いずれも正しいことを述べておられますが、ほとんどは、信者同士の間でか
わす会話という状況設定のように見受けられます。宗外者や、参詣・ご奉公経験
の少ない人に対しては、信心のことを信行用語で説明しても通じない点が多いの
ではないでしょうか。

また、「佛立宗らしいお寺」という側面をもっともっと意識して表現を練って
いきましょう。

なお、初めての試みとしては、皆さんまじめに取り組んでいただき随喜してお
ります。

●次回以降のテーマについて自由に提案。

功德。信心。御利益。謗法。寂光。ご回向。弘通。本門佛立宗。 （発言順）

次回までにテーマ「お寺」について、他の方の発表なども参考にしながら、もう一
度、表現を再検討してくる。

また、上記の新テーマ群のなかから一つをえらんで、表現をまとめてくる。

●今後の日程.....二ヵ月に一度のペースでオンライン開催。

次回は、5月11日（土）19:00～

7月13日（土）19:00～

9月 7日（土）は弘通教養担当者会議と併行開催

11月9日（土）19:00～

●言語化・文章化のための参考に

このたびの研修では、なるべく文字にして記述したものを準備されるようお勧めいたします。（そうは言っても苦手な方には苦行かもしれませんので、なるべく、ということをお願いいたします。）

そこで、書き方の参考として、いくつかのポイントをお示しします。

- ・「わたしにとってのお寺はoooo・・・・ooo。だからあなたもお寺に行ってみませんか？」というふうに、人に伝えることを想定しながら、自分なりの説明を考えてみましょう。
- ・自分の感情、こころの有りようを書き加えてみましょう。
- ・完成された答をめざすのではなく、自分の体験を短い文章につづるだけでもOKです。その見本として参考文献『戦争語彙集』から「歌」（発表者 オリハ ザポリージャ在住）と題した文章を紹介します。

歌

音楽学校で暮らすのって、素敵じゃない？ 歌うことが好きなの。砲撃が終わるのを地下室で待っている間も、ずっと歌っていたわ。口に出して歌うと周りも一緒に歌ってくれるから、気持ちいいわよ。周りが疲れてくると、独りで口ずさむの。そっと心の中で、静かにね。歌も歌詞もみーんな思い出せたんだから。思い出している間は眠くならないのよね。眠るのが、怖いからね。

※分量もこれくらいまでが良いのではないのでしょうか。

※自分の実際の体験にまさるものではありません。たいせつなことは、自分の気持ちをことばにして織り込むことです。

※最後に。

文章化したり、発表したりするのは遠慮したいけれど、研修会のようなすを見学してみたいという方がありましたら、自由におさそい下さい。そういう方も歓迎します。もちろん、どしどし発表したい、指導を受けたい、刺激を貰いたいという方は大歓迎です。

こうした研修は必ずや皆さんのこれからの信行生活を潤し、稔りある功德行の資本となるに違いありません。

以上